農が人と人を結ぶ 新たな担い手たち

“名張で農業がしたい”縁あって名張で農業を始めた人たちがいます。
そして、農業での出会いを通じて、彼らを見守り支える人たちがいます。

農業をテーマに都会と地方をつなぎその価値を伝える

■加藤 康次 さん（滝之原）

西山さんの住む滝之原にある耕作放棄地で、自然栽培の米作りを始めました。農業体験がしたい若者をホームページなどで呼び掛けると、大阪や東京などから延べ約100人が参加。企業なども地域貢献の視点から、一緒にやりたいと声が上がるなど広がりをみせています。3年目の今年は、収穫量が落ちて農業の難しさを痛感しました。原因を考え、冬にしておくべき課題に取り組むところです。

都会と地方の違い

都会では、モノがあふれ便利に生活ができます。一方、地方では自然との共生を軸に毎日の暮らし方や仕事があります。人は本能的に後者の暮らし方を求めていると感じます。

滝之原の古民家をお借りして、名古屋と二地域居住で生活をしながら、これからも都会と地方をつなぎ、魅力ある資源を発信していきます。

西山さんとの出会い

私は名古屋で、ウェブデザインの仕事をしています。デザインで魅力のあるものを発信しようと、農業や地方をテーマにその本当の価値や可能性を見いだしたいと思っています。

名張に住む農家の西山さんとは、農山漁村と都市のニーズを結び新たなビジネスモデル構築を学ぶ講座で出会いました。農業に関心があった私は、西山さんの情熱に魅せられ、名張で農業をしたいと思いました。

滝之原で自然農法セミナー講師として参加者と一緒に農業

地域を活性化

滝之原在住
西山 法生　さん

退職後、親から田畑を引き継ぎました。周りの農家も皆60代から70代です。農業を続けていこうという後継者が減ってしまいました。私は、農業ビジネスを通じて地域が盛り上がらないかと考えています。地域には、都会から移住してきた若者たちもいます。彼らのパワーと一緒に楽しいことをしたいですね。

名張の小さな畑でも食べていける農業を確立したい

■伊藤 英次 さん（赤目）

そこで、4年前から私自身で「さつまいも農園」を作り、若者に手伝ってもらっています。比較的育てやすいですし、イモ掘り体験ができる農園では、お客さんの顔が見えます。自分が作ったものを食べてもらって、おいしいと言ってもらえたときのうれしさを若者に感じてほしいからです。そして、小さな畑でも食べていける、名張なら農業でなんとかなるというスタイルを確立したいと思っています。できれば楽しみながら。

また将来、海に「海の家」があるように、畑を見ながら、訪れた人がのんびりと楽しむ「畑の家」みたいなものを作りたいと思っています。

か」など、農業の現実に悪いイメージを持つ声も多いので、何とかしたいと思っています。

名張の小さな畑でも

父親の背中を見て

父が大阪での勤めを辞め、青汁の原料「ケール」の栽培を名張で始めたのが約30年前です。私は、卒業後、大阪でサラリーマンをしていましたが、ケールの需要が高まり、生産が追いつかない様子を見ていて、農業を手伝い始めるようになりました。

私より若い人たちにも、農業に関心を持ってほしいと思っています。「しんどい・汚い・孤独」「結婚して子どもを養っていける

イモ掘り体験には、大阪や名古屋からの参加者も多い

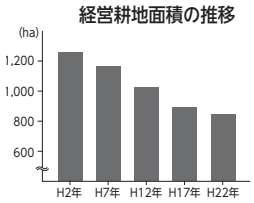
作る喜びを感じて

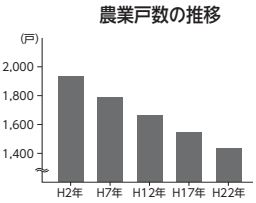
英次さんの父
伊藤 傳一　さん

初めはどこまでできるかと思っていましたが、実際「これを食べているおかげで元気になった」など消費者からの声を直接聞いたことで、息子も自分が作ったものを喜んで待っている人がいると知って、続けることができているのだと思います。

本格的な農業を志す若者を育てて、担い手のいない農家の支援もしたいですね。

名張の経営耕地面積は、約860ヘクタール。20年前に比べると約30％が減少しています。農業従事戸数は、市全体の33,000世帯数のうち、約4％にあたる1,441戸となっており、その数も年々減っています。





（農林業センサス2010年より）

女性の目線だからできる農業にやりたい夢が広がる

■井上 早織 さん（南古山）

縁あって名張へ移住

名張に来る前は、大阪で専業主婦をしていました。都会での便利な暮らしは快適でしたが、父の会社の倒産などを経験し、生きる基本の「食」と「農業」について考えるようになりました。縁あって私は、名張で農業塾に参加。また夫は、名張で水耕栽培ができるという話を聞いてきました。この偶然が重なり、名張の古民家に移住して農業をすることを決めたのです。

役所の窓口へ「農業をしたい」と、突然相談に行ったので担当者はびっくりされたと思います。粘り強く思いを伝えて、行政や地域の人に協力してもらい、南古山の農地を借りることができました。

野菜の根を見れば、元気に育っているかがすぐ分かる

女性の目線で農業

最初は資金も少なく、夫が仲間を集めて水耕栽培のハウスや井戸を手作りしました。失敗の連続でもうダメだと思うこともありましたが、夫婦二人三脚で会社を軌道に乗せました。農業を始めて4年。小松菜・水菜など栽培し、安心、安全をモットーに女性目線で経営を続けることで、少しずつお客さんから信用を得ることができました。

会社では障害のある人も一緒に働いています。障害の有無に関わらず、全ての従業員にとって日本一居心地のいい幸せな会社にしたいです。そして、古民家を使っての交流事業など、やりたい夢がこれからもたくさんあります。

南古山は、30軒ほどの地域です。過疎化をはじめ、田や畑の後継者不足など課題が多くあります。しかし、彼女の農園が南古山にできたことをきっかけに、人の流れができ少し活気が出てきたように思います。最初、遠巻きに見ていた住民も刺激を受け始めました。私もその一人で、今では、井上さんの農場で出荷作業などを手伝っています。

私たちも刺激に

南古山在住
岡森 力哉　さん

難しい技術が必要なパプリカ栽培にも挑戦 有機農業を実践中

■鯨岡（くじらおか）　恵（めぐみ）さん（薦生）

福島での体験から

大学時代は農学部で環境問題を研究していました。卒業後、実家のある福島県いわき市で農業法人に就職し、有機栽培を実践していました。

そんなある日、東日本大震災が発生しました。農園の一部が福島第一原発の30キロメートル圏内であったため、そこでの農業を諦めざるを得ませんでした。頑張っていたことが一瞬で失われたことがとてもショックでした。

名張で有機栽培

しかし、農業がしたくて、東京で開催された農業イベントに立ち寄った際、三重県の職員の人に、「有機栽培ですごい人がいるよ」と紹介されたのが、名張に住む福廣さんでした。福廣さんの農場を初めて見たときは感動しました。畑はとても美しく、手間を掛け、土や水・気温などを理論的に考え、もうかる有機農業を実践されていたからです。

今、福廣農園の近くで畑を借り、有機トマトを栽培しています。季節に応じて春菊や水菜などの葉物野菜、そして有機栽培が難しい「パプリカ」なども挑戦しています。

名張に来て4年半が経ち、農業でやっと生活できるようになってきました。今は名張で農業ができる喜びを感じながら、少しずつ収入を上げていくことが目標です。

畑では、手間を掛けて育てた有機野菜が育つ

人材育成のため、研修生の受け入れもしていますが、農業を続けていくには、やはり大変なことも多く、ただ何となくしたいからだけでは難しい。どういう農業をしたいか。経営をしたいか。ちゃんと考えられる人は、能力次第でどんどん伸びます。これからも、鯨岡さんのように、目標を持ってできる若者の夢を応援したいと思います。

若者の夢を応援

福廣農園　代表
福廣 博敏　さん